

備前市事務事業評価シート

(平成23年度事業)

事業の概要		事業開始年度		平成7年～		根拠法令・例規等		文化財保護法	
総合計画	大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり		問	担当課(室)	生涯学習課	
	中項目	基本施策	02	歴史と文化の輝くまちづくり			職・氏名	係長 石井 啓	
	小項目	施策	03	文化財の保存と活用			電話	0869-64-1841	
事務事業名		01	文化財保護事業		このシート作成に要した時間		時間		

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	文化財や地域文化などに興味がある人全般		
目的(何のために)	文化財や地域の文化遺産を保護、活用することで、地域文化の向上を図る。また、六古窯の一つと言われながら、調査、研究が遅れている備前焼について、その歴史についての未解明な部分を明らかにしていくと同時に活用を図る。		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	地域の文化財や文化について多くの人に情報提供することで、郷土の文化財の保護や活用について興味や理解を促し、貴重な文化財を後世に引き継ぐという認識を深める。		

事業の実績		Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	文化財保護管理運営事業	指定文化財の保存、保護管理、活用のため防災設備整備への補助、草刈等の実施、説明板の整備を実施。また地域の文化資産の把握のため、仏像と古文書について、所在、内容、現況等を網羅的に調査。また市内の工事に伴い、遺跡の発掘調査を実施。また文化財を周辺も含めて総合的に保存活用していくための「備前市歴史文化基本構想」の策定に着手。	
	備前焼総合調査史跡整備事業	国指定史跡「備前陶器窯跡」の調査、保存のため、遺物の整理と発掘調査報告書を作成。また備前焼の研究のためのフォーラムを開催。	
	埋蔵文化財管理センター運営事業	遺物の管理、活用のため、埋蔵文化財管理センターを整備し、展示スペースを設け、いつでも誰でも観覧できるようにした。また遺物の整理、管理のための収蔵庫も整備。	

決算額	事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
	事業費	千円		11,192	12,352	37,903
	必要人員	人		1.13人	0.81人	1.54人
	事業費	千円		7,586	18,762	51,232
	国庫支出金	千円		7,237	9,151	23,659
	受益者負担	千円				
繰入金	千円					
市債	千円					
その他(原因者負担金)	千円				3,900	
一般財源	千円		11,541	9,611	23,673	
受益者負担比率	%		-	-	-	

結果指標	結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
	指定文化財等対応件数	件	137	145	315
	対前年比	%	-	105.8%	217.2%
	活動コスト	円	18,778,000	18,762,000	51,232,000
	単位当たりコスト	円	137,066	129,393	162,641

事業の成果		Check				
成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値	
指定文化財等対応件数	目標値(A)	130	140	150	150	
	実績値(B)	137	145	315	到達目標値	
	達成率(B/A)	105.38%	103.57%	210.00%	140	
成果指標設定の考え方・式や説明						
地域内にある文化財や文化遺産の保存活用が目的のため、調査、管理などへの対応件数を成果指標とした。						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください		Check	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい	B	
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い			
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい	C	
	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい	B	

進行年度(H24年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	今後文化財関連事業については、備前市歴史文化基本構想を基にまちづくりの資源として文化施設の役割とともに総合的に検討していく必要がある。

総合評価		Action	
文化財を保護、活用し、地域の文化遺産として、またまちづくりの材料として考えていくためには、地域資源と、地域の人たちのニーズを把握しておく必要がある。	総合評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい	B	

平成25年度の方向性・取組目標		Action				
方向性	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了					
取組目標	備前市歴史文化基本構想に定められた内容を実行するための取組みを行う。					

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標を評価する